



(沖縄タイムス オフィスの窓から 第2回 2025年6月8日掲載)

株式会社おきなわC&Cホールディングス

代表取締役社長 大神田睦

## 「信頼の連鎖」物件守る

空き家には、住んでいた人の記憶や家族の時間が、今もそっと残っていることがあります。

今回は、グループ企業のおきなわサービスの現場から、「信頼」が再び動き出すきっかけとなった案件をご紹介します。

ある日、当社担当者が信用情報誌の競売情報に目を止めました。物件は、当社の債務者である設計士がかつて暮らしていた空き家でした。現在の所有者は、設計士のいとこ。債務の履行が困難となっているため、競売にかけられていました。

当社は十数年前、金融機関からこの設計士に関する債権(元本1,150万円)を譲り受けており、以後、設計士は誠実に返済を続けています。この情報を設計士に伝えたところ、後日、親族からも競売物件を守れないかとの相談が寄せられました。法的手続や関係者の意向を丁寧に伺いながら、今後の対応を慎重に検討する流れとなりました。

親族間の調整役を担ったのは、競売不動産の所有者の姉。かつて弟の債務に関わった経験もあり、当初は戸惑いも見られましたが、状況を受け止めながら、関係者間の調整にも前向きに取り組んでいきました。私たちも対話を重ね、当事者が納得できる選択を尊重する姿勢を大切にしました。当社は競売に関する債権をノンバンクから譲り受け、現金の代わりに不動産などで債務を弁済する「代物弁済契約」を締結。物件を1,350万円で受け入れました。その資産価値をもとに、親族の債務を調整。設計士の返済にも一部が充当され、残額は分割で再整理しました。

物件は、不動産市況に準じた条件で親族関係者に賃貸し、適正に管理しています。将来、買い戻しを希望する場合、法令と実務慣行に基づいて対応する方針です。

こうした取り組みを通じて積み重ねてきた経験が、今もさまざまな課題解決の場面で発展的に機能していることに、私たちは仕事の意義をあらためて感じています。この“信頼の連鎖”が、新たな価値を生む力として、事業承継やM&Aといった分野にも確かにつながっていると感じています。